

第2回志太榛原地域医療構想調整会議

各病院の今後の方向性について（会議録要約）

病院名	内容
島田市民病院	<ul style="list-style-type: none">・ 3年半後の立て替え予定。病床の規模は、感染6床、結核4床を含めて、急性期病床405床、回復期病床を40床で、医療療養病床は持たない予定。・ 地域に在宅医療に関わる診療所が少ないので、病院としても在宅医療に携わっていく。・ 島田市の訪問看護ステーションに、病院看護師を出向。研修の際沖縄県の医師が、「折角病院で良くなっても、家に帰してからのケアが不十分で、また悪くなって再入院してくる。それなら、在宅まで病院で関わってほしいと有志の医師たちが集まって在宅医療を始めた。若い医師たちも在宅医療を体験をすることで、非常にモチベーションが上がる」と話していて、そういったことを目指したい。
焼津市立総合病院	<p>当病院の方向性について、ハード面とソフト面から話したい。</p> <p><ハード面></p> <ul style="list-style-type: none">・ 立て替えを計画している。 <p>病院の持つ機能として、純粋な急性期病院を考えており、救急医療とか災害医療とかにも、力を入れていきたい。</p> <p>医師会、近隣の病院、藤枝市立病院、島田市民病院、榛原総合病院などと協力体制を作っていきたい。</p> <p>当院の得意とするところを伸ばして、弱いところは他の病院にお願いしようと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 病床の規模としては、470床の現状維持で、病院の重要な機能とし、救急・周産期・小児・脳卒中に加え、がんにも対応していきたい。 <p><ソフト面></p> <ul style="list-style-type: none">・ 在宅医療と認知症対策も充実していきたい。・ 在宅医療の第一歩として、退院した患者が再入院しなくて済むように、退院後の1ヶ月間、病棟の看護師が自宅訪問して、必要に応じて訪問看護ステーション等に引き継いで行きたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の問題を足がかりとして、将来は、病院で訪問看護ステーションを設置することも視野に入れている。 医師会の皆さんと協議しながらやっていく。 また、地域全体で、取り組む必要がある。 まず、認知症のサポートチームを院内に立ち上げて、院内活動後、地域活動に向けて進めて行くことが夢であり、一歩ずつ進めている。
<p>榛原総合病院</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在招聘活動している常勤の医師 3 名を確保することによって、また、看護師も 10 名確保することにより、病院の機能向上が期待できると思う。 ・ 500 床の病床のうち、開床しているのは、急性期 150 床、慢性期 42 床、合計 192 床であり、療養病床は常に満床、急性期病床も 85%程度を維持している。また、併設老健も 90%を維持。 ・ 今後、医師や看護師を確保することが出来れば、急性期 1 病棟、慢性期 1 病棟または回復期リハ病棟の開設を考えたい。 ・ 急性期は他の 3 病院にお任せして、当院は慢性期に転換する方が良いのではないかという声が院内外にあることは承知している。しかし、現在、当院が引き受けている救急（年間）1800 件と、1500 件の手術、休日の受診者 60 人、連休などの受診者 70 人～80 人を近隣の病院にお願いすることは、技術的な点、医療安全面、住民感情的にも難しい。高度急性期治療は困難としても、急性期を当院が担う必要があるのではないかと考えている。 ・ 在宅医療は以前より力を入れており、在宅看取り率は全県下でトップ。引き続き充実するように努力していく。 ・ 特に在宅医療は、地域の先生たちと連携して行うものであり、地域包括ケアシステム作りについても、今後勉強していく。 ・ 今後も、スタッフ確保に努め、地域住民が安心して生活できるまちづくりに、お役に立ちたいと考えている。